

JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL:<http://www.joskas.jp/>

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル (株式会社コングレ内) TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-5552

年頭のご挨拶

JOSKAS 理事長

安達 伸生



新年あけましておめでとうございます。日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) の会員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

私が JOSKAS 理事長に就任してはや 1 年 7 か月が経過しました。この間、厚いご指導、ご支援いただきました会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

さて、昨年は第 11 回 JOSKAS が内尾祐司会長のもと、令和元年 6 月 13 日から 15 日まで札幌コンベンションセンターにて開催されました。本学会では 2900 名近くの参加者があり、大変成功裏に終了されました。内尾会長ならびに島根大学整形外科学教室およびご同門の先生方のご尽力に心より感謝申し上げます。内尾会長の掲げられた「融合、革新、そして次の 10 年へ」のテーマのもと、大変アカデミックレベルの高いディスカッションが行われ、特にアジア各国より多くの招待演者を迎えました。元サッカー日本代表監督である岡田武史氏の文化講演も大変盛況でした。例年通り 2019 年度 JOSKAS 学会賞、OYIA 賞が決定し授賞式が行われております。

今年の JOSKAS は弘前大学整形外科の石橋恭之教授を会長として同じ札幌の地で開催されますが (2020 年 6 月 18 日～20 日)、日本整形外科スポーツ医学会 (JOSSM) との合同開催となります。ご存じのように本年より 3 年続けて JOSKAS と JOSSM は合同開催となりますが、今回はその試金石となる大切な学会です。今後の両学会の在り方にも大きく関係しますので、会員の皆様におかれましては是非積極的に参加の上、学会を盛り上げていただければと思います。よろしく申し上げます。会員の先生方には両学会の合同開催や学会の合併などについてアンケート調査させていただきました。現在

両学会理事会を通じて種々検討しておりますので、今後随時ご報告いたします。

次に JOSKAS においては 2015 年より関節鏡手術症例の Web 登録システム (JOSKAS eNOTE) を運用し、関節鏡手術症例数や術中術後の合併症などの情報を収集してまいりました。現在全国約 300 の医療機関より総数約 8 万例の登録をさせていただいております。一方、2017 年より日本整形外科学会にて症例登録制後設立の検討が始まり、日本整形外科ナショナルレジストリー (JOANR) として、本年 4 月より正式に運用が開始されることが決定しております。JOSKAS eNOTE は正式に JOANR に移行いたします。正式に移行後は JOANR の web ページから基本項目を入力 (1 階部分) したのちに、2 階部分に進んで従来 JOSKAS eNOTE で登録していた内容を入力することになります。(詳細は JOSKAS ニュースレター第 14 号、日整会 HP を参照ください) 関節鏡手術のナショナルレベルでの登録や解析は大変重要な項目であり、今後の医療行政対策にも必要です。会員の皆様には引き続き関節鏡手術登録をお願いいたします。

昨年はラグビーワールドカップで日本中が熱狂し、私もわかラグビーファンになりました。「ONE TEAM」のスローガンとともにチーム一丸となって戦う姿には、大変感動しました。JOSKAS も会員全体が大きな目標に向かって進む一つのチームでありたいと思います。引き続きのご支援、ご協力のほどお願いいたします。皆様にとって 2020 年が素晴らしい飛躍の年であることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

JOSKAS セミナー実施報告

島根大学 整形外科 熊橋伸之

第 11 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) セミナーが、令和元年 (2019 年) 6 月 15 日 (土) に札幌コンベンションセンターで、JOSKAS カダバーワークショップが 8 月 22 日 (木)・23 日 (金) に札幌医科大学にて行われ、共に無事終了しましたので報告させていただきます。

6 月に行われたドライセミナーにおいては、54 名の先生方にご参加頂きました。例年通り、膝関節鏡コース、肩関節鏡コース、股関節鏡コース、足関節鏡コースの 4 つに分かれ、講義の後、各ブースに分かれ、実技のコースをやって頂きました。膝関節鏡コースでは、ブタ膝を用いて行うことで、より生体に近い状態での実技を行うことが出来ました。

また 8 月に行われたウェットセミナーにおいては、20 名の先生方にご参加頂きました。例年通り札幌医科大学整形外科教室および解剖学教室の先生方に御協力頂き、開催させて頂きました。今回も 2 日にわたり、膝コース、足コースに分かれ、膝・足関節鏡を用いた手術手技のトレーニングを行いました。膝では膝蓋腱、ハムストリング腱を用いた ACL 再建術、半月板縫合についての講義、足では解剖と足関節鏡手技の講義のあと、ワークショップを行いました。受講者の先生方は膝・足関節鏡の基礎知識や手術手技の要点と盲点について習得されていました。両セミナー後の先生方のアンケートを見ますと、ほとんどの先生方が本セミナーを大変有意義でありまた参加したいのご意見を頂いております。また、国内でこのレベルのことができて大変有意義であったのご意見も頂き、今後も本セミナーに多くの先生方にご参加頂き、手術手技の向上に少しでも寄与できればと考えております。

本セミナーにおいてご多忙の中、各分野の関節鏡エキスパートの講師の先生方に御指導頂き、この場を借りてお礼申しあげます。また本セミナーの開催にご支援・ご尽力いただきました多くの皆様にも、厚く御礼申しあげます。



2019 JOSKAS-SFA 研修旅行報告記

東北大学 整形外科
井樋栄二



図1 パリ・フィルハーモニー・ホール (パリ)

この度、2019年 JOSKAS-SFA 研修旅行に godfather として参加し、中佐智幸先生 (広島大学)、美船 泰先生 (神戸大学) とともにフランス各地を訪問する機会をいただきました。

受け入れ先であるフランス関節鏡学会 (SFA) 側が大変気を使って下さり、手術見学も普通であれば膝のオンパレードでしょうが、今回は私の専門が肩、美船先生も肩・肘・手ということで、訪問する先々で多くの肩手術を見せてもらいました。私たちが見学した手術は肩 20 件、肘 6 件、股 1 件、膝 1 件でした。一方、中佐先生が専門とする足の手術はボルドーに行くまではなかったのですが、ボルドーでは数多くの足の手術を見せてもらい大満足だったようです。

気の使いようは手術ではありません。観光に連れて行ってもらったり、星付きの高級レストランでご馳走になったり、至れり尽くせりのおもてなしでした。それにも増して個人的に感動したのは、各地の大聖堂でオルガンを弾かせてもらったことです。実は 2015 年の SFA で招待講演をしたときに、講演の最後にパチカンのサン・ピエトロ大聖堂で弾いたオルガン演

奏を披露したところ大変な拍手喝采をいただきました。それ以来、オルガンを弾くことが SFA の間では広まったようで、2016 年にはアヌシーで、2018 年にはパリでオルガンを弾かせてもらいました。今回も渡仏前に送られてきた旅程表には、リヨン、トゥールーズ、ボルドーでオルガン演奏が予定に入っており、渡仏直前にはパリの Nourissat 先生からパリ・フィルハーモニー・ホールのオルガンを予約したというメールがきました。これ以上はないというおもてなしを各地でいただき、まさに感謝感激雨あられの 2 週間でした。ここに各地で弾かせてもらったオルガンの写真を掲載します (図 1-5)。今回、多くの先生との再会や新たな出会いがあり、手術見学や症例検討を通してフランス流の考え方や治療に対する工夫も学ぶことができ、大変実りの多い研修旅行でした。

このような機会を下さった安達伸生理事長をはじめとする JOSKAS 理事会の皆さん、また本制度導入を英断された越智光夫前理事長に深謝申し上げます。

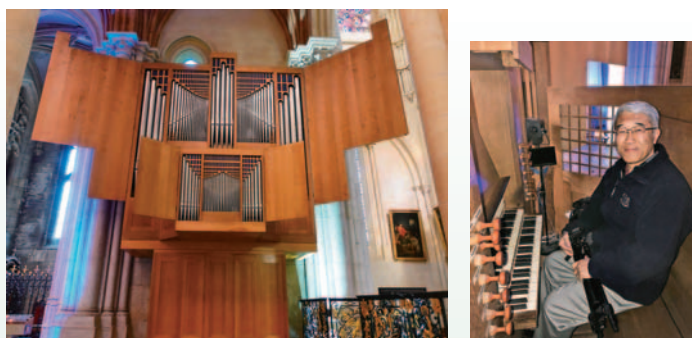


図2 サン・ジャン大聖堂 (リヨン)

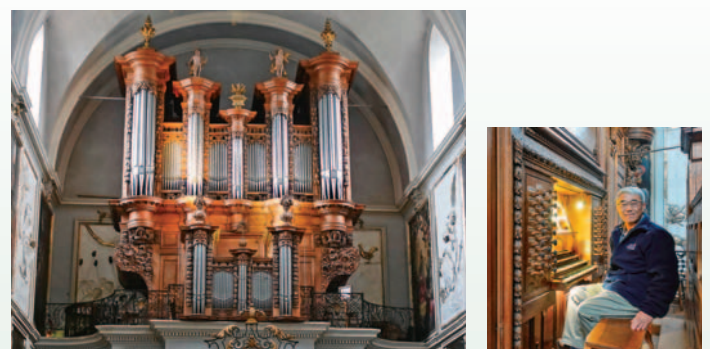


図4 サン・ピエール・デ・シャルトルー教会 (トゥールーズ)



図3 サン・セルナン大聖堂 (トゥールーズ)

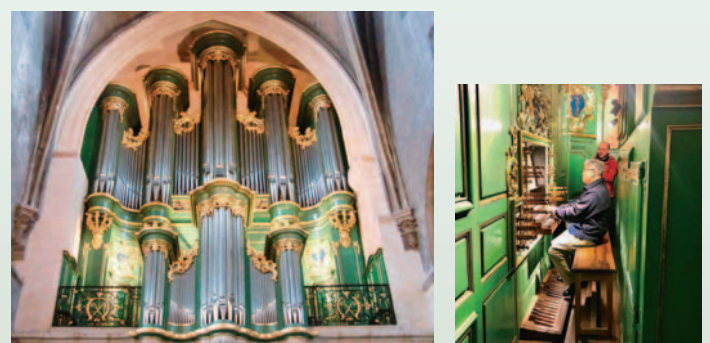


図5 ボルドー聖十字架教会 (ボルドー)

SFA traveling fellowship

体験記

広島大学病院 整形外科

中佐智幸

12月1日から12月14日まで、JOSKAS-SFA travelling fellowとしてフランスのパリ、リヨン、トゥールーズ、ボルドー、レンヌの5つの都市を訪問させて頂きました。まずパリのClinique Maussins-Nolletにて、Geoffroy Nourissat先生の肩関節の手術、Marc Elkäim先生の鏡視下足関節・距骨下関節固定術を見学しました。翌日、リヨンに移動し、サンティ整形外科センターで、Bertrand Sonnery-Cottet先生のACL再建術、Arnaud Godeneche先生やGilles Walch先生といった高名な先生方の肩関節手術を見学しました。Sonnery-Cottet先生は年間600例ACL再建を行っており、この日も11件のACL再建を行うとのことでした。私自身は、足の外科が専門であり、肩関節の手術をみる機会がほとんどなく、丁寧かつ迅速な手術を新鮮な気持ちでみる事ができました。リヨンからトゥールーズに移動する際、年金改革反対の大規模ストライキが始まり、飛行機がなかなか離陸することができず、遅れて到着することになってしまいました。そのため、この日は手術見学できず、夕方にプレゼンテーションを行うのみになってしまいました。翌日、Medipole Garonne Centerにて、TKA、肩関節鏡手術、股関節鏡手術を見学しました。土曜日には、Nicolas Bonneville先生が、世界遺産であるCarcassonneに連れて行ってくださいました。次の訪問地のボルドーでは、昨年トラベリングフェローで来日したYacine Carlier先生と



トゥールーズでの食事会

再会しました。Clinique de Bordeaux Merignacでは、Stephane Guillo先生、Guillaume Cordier先生という足の外科で有名な先生方の手術を見学しました。手術手技について丁寧に説明して頂き、また多くのdiscussionができ、とても貴重な経験ができました。ボルドーからレンヌに移動してSFA congressに参加し、プレゼンテーションを行いました。ここでは、これまで各地でお世話になった先生方にも再会し、とても楽しい時間を過ごしました。最後に、このような貴重な経験を与えて頂きましたJOSKAS理事の先生方、SFA関係者の皆様、井樋先生、美船先生に心より深謝致します。



Centre Orthopedique Santy (リヨン) にて



Clinique de Bordeaux Merignac (ボルドー) にて

この度、JOSKAS-SFA traveling fellowship に選んでいただき、2019/12/1 から2週間、フランスの5つの都市を回りながら、大変多くの経験をさせて頂きました。

1か所目のパリでは、G.Nourissat 先生によるステムレス TSA、後方 ABR、ARCR、Latarjet 法など様々な手術を見学させて頂き、その鮮やかな手技に見惚れるばかりでした。

2か所目のリヨンでは有名な Centre Orthopedique Santy を訪ねました。そこでは、幸運にも G.Walch 先生の TSA を拝見することができ、その鮮やかな手技と、まるで預言者のように展開される解剖の説明に、興奮せずにはいられませんでした。他にも ARCR、RSA、Latarjet 法や後方不安定性に対する腸骨移植、肩以外にも ACL 再建術、半月板縫合術なども見学することができました。

3か所目のトゥールーズでは、フランス全土一斉に開催された「ストライキ」のため飛行機が6時間も遅れるというアクシデントもありましたが、Medipole Garonne Center において ARCR や ACTR、股・手関節鏡なども見学することができました。

4か所目のボルドーでは Clinique de Bordeaux Merignac を訪問し、P.H.Flurin 先生によるナビゲーション RSA や ARCR、Y.Carlier 先生の肘関節鏡や上腕三頭筋腱を用いた肘 LCL 再建術、上腕骨内外側上顆炎など多彩な肘関節手術も拝見しました。

5か所目のレンヌでは SFAcongress に参加させて頂き、日本ではほとんど行っていないような手技の

発表や、G.Walch 先生、P.Collin 先生、P.Boileau 先生、L.Lafosse 先生という豪華4名による症例検討など、見どころ満載でした。

今回、各地で研究発表および討論会も開催していただき、学会においても2つ発表させて頂きました。通常この短期間では得られないような多くの経験を、多くの都市を回り、多くの先生方の手技を拝見し、学び、交流を深めることで得ることができたのではないかと感じています。

最後に、JOSKAS 選考委員の先生方、SFA の皆様、神戸大学整形外科の先生方、お忙しい中 God father としてご同行いただきました井樋栄二先生、戦友の中佐智幸先生に心より御礼申し上げます。



Centre Orthopedique Santy (リヨン) にて



SFA2019 会長招宴にて お世話になった Yacine Carlier 先生と



SFA2019 でのプレゼンテーション



いかなる疾患においても「病態に則した治療」を行うには、病態の理解が不可欠である¹⁾。変形性膝関節症（膝 OA）においては、近年「早期」の病態に関心が集まっており、この過程が徐々に明らかになりつつある²⁾。

膝 OA は、単純 X 線では主に関節裂隙狭小化と骨棘の程度を用いて評価してきた。MRI を用いた病態解析が進み、単純 X 線で評価した関節裂隙幅も関節軟骨と半月板の変化としてより詳細に捉え、さらには軟骨下骨や靭帯の変化や滑膜炎の状態までも評価可能となり、早期から初期膝 OA において重要な知見が明らかになっている³⁾。特に、半月板と骨棘が膝 OA 早期の病態に重要な役割を担う可能性が強く示唆されてきている。

中高年者では、膝 OA の発症が高まるのと同様に半月板損傷の有病率も高まる。単純 X 線学的膝 OA を認める場合は有病率がより高まるものの、膝 OA を認めない場合でも半月板損傷の有病率は加齢とともに高まる。しかし、膝 OA の痛みは、ロッキングやキャッチングを除く半月板損傷と関連しない⁴⁾。

膝 OA に伴う半月板の所見として、損傷のみではなく位置異常も重要である。半月板位置異常とは、MRI 冠状断面にて骨棘を加味しても内側半月板であれば内方へ、外側半月板であれば外方へ、数 mm 位置を変えていることを指す。特に、内側半月板の場合「内側半月板逸脱： medial meniscal extrusion (MME)」(図 1) と称され、膝 OA の発症と進行のリスクが高まる。しかし、半月板の位置異常を起こす機序については未だ解明されていない。



図 1 内側半月板逸脱 (Medial meniscal extrusion : MME)

さらに、単純 X 線では膝 OA のない中高年者に膝 MRI を行った際、最も高頻度に認められる膝 OA 早期の病変は、軟骨損傷ではなく骨棘であることも示されている⁵⁾。しかし、骨棘は膝 OA の二次的変化であり臨床的意義に乏しいものと考えられてきた。従って、骨棘への関心は低く、発生機序や膝 OA 早期における役割についての知見は乏しい。

われわれは、早期から初期膝 OA 患者の解析から、① MME は前根や後根損傷のみならずいかなる部位の半月板損傷がなくても発生すること (表 1)、②骨棘は内軟骨性骨化と同様の過程で形成されるため、骨棘表層には常に軟骨成分が存在すること (図 2A、B)、そして③軟骨成分を加味した脛骨の骨棘幅は MME と一致すること (表 2) を示した。内側半月板は、冠状靭帯を介して脛骨内側皮質に強固に付着している (図 3A)。従って、MME の発生機序として、脛骨内側に数 mm でも骨棘が形成されると、冠状靭帯を介して

表 1

対象者数 (平均年齢)	50 (57.0 歳)		
単純 X 線所見	K/L 0/1/2 (n)	3/27/20	
MRI 所見	MME (mm)	3.0 (1.6)	
	内側半月板損傷 (n)	15	
	内側半月板後根損傷 (n)	0	
	大腿骨内側骨棘幅*	骨成分 + 軟骨成分 (mm)	2.1 (1.4)
		骨成分 (mm)	1.3 (0.9)
		軟骨成分 (mm)	0.8 (0.8)
	脛骨内側骨棘幅*	骨成分 + 軟骨成分 (mm)	3.3 (1.9)
骨成分 (mm)		1.8 (1.4)	
軟骨成分 (mm)		1.5 (1.5)	
骨棘有病率 (内側コンパートメント)	単純 X 線 (%)	40.0	
	MRI (プロトン強調像) (%)	48.0	
	K/L0/1/2 (%)	0/44.0/60.0	
	MRI (T2 マッピング) (%)	98.0	
	K/L0/1/2 (%)	100/96.7/100	

K/L : Kellgren-Lawrence 分類、MME : Medial meniscus extrusion、* T2 マッピング MRI による評価 (文献 6) より引用)

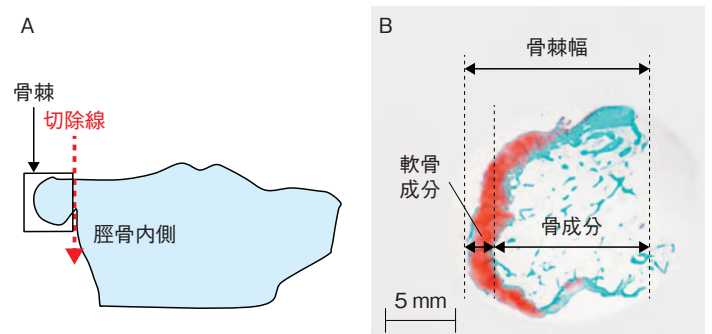


図 2 末期膝 OA の脛骨内側の骨棘における軟骨成分の確認とその幅の測定⁶⁾
A : 骨棘の切除部位、B : 骨棘の先端に存在する軟骨成分の組織像

MMが内方に移動するという機序を推定している（図3B、C）⁶⁾。

近年の最新の技術をもってしても、膝OAの進行を抑制できるとする確固としたエビデンスは存在しない。その理由は

表2 早期及び初期膝OA患者におけるMMEとMRIによる膝OA構造変化との関連

項目	β	p
軟骨病変*	0.352	0.009
骨棘*	-0.200	0.207
骨髄異常陰影*	-0.037	0.725
骨嚢胞*	-0.038	0.785
軟骨下骨陥凹*	-0.039	0.763
内側半月板損傷*	0.174	0.144
骨棘幅（大腿骨内側）#	-0.070	0.648
骨棘幅（脛骨内側）#	0.711	<0.001

重回帰分析。*MRIプロトン強調像を用いたWhole Organ Magnetic Resonance Imaging Score (WORMS)による評価、#T2マッピングMRIを用いて骨棘の骨棘成分に加え軟骨成分を加味した評価（文献6）より引用

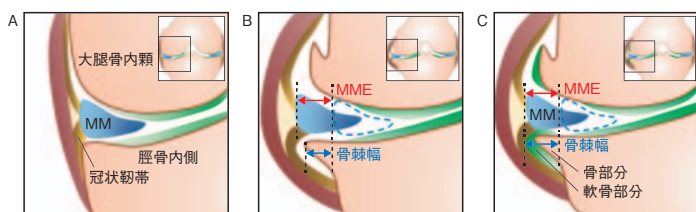


図3 早期・初期膝OAの膝内側のMMEと骨棘との関連⁶⁾

A：正常では、内側半月板（MM）に付く冠状靭帯は脛骨内側に付着している。B：従来、骨棘の骨成分のみ評価した場合、MMEは骨棘幅以上に膝内側への逸脱が大きい。C：骨棘には骨成分に加え軟骨成分があるため、これを考慮すると早期・初期膝OAではMMEと骨棘幅は一致する。

何故か？膝OAは長きにわたり、「関節軟骨の変性及び摩擦を首座とし、それに伴って軟骨下骨が硬化し、半月板が損傷し、滑膜炎が発生しそして関節が変形していく疾患」と考えられてきた。しかし、この既成概念に疑問を呈するエビデンスが示されつつある。膝OA早期における半月板位置異常や損傷そして関節軟骨摩耗の機序という、病態の本質的な理解が進むことで、本疾患の「病態に則した治療」の実現により近づくことが期待される。

文献

- 1) 石島旨章, 金子晴香, 根岸義文, 百枝雅裕, 岡田保典, 金子和夫. 変形性膝関節症における慢性疼痛. 日本臨床 2019; 77: 2027-2034.
- 2) 石島旨章, 金子晴香, 岡田保典, 金子和夫. 変形性膝関節症の診断・治療の現状と今後の展望. Clinical Calcium 2018; 28: 749-759.
- 3) 石島旨章, 羽田晋之介, 金子晴香, 劉立足, 青木孝子, 根岸義文, et al. 早期変形性膝関節症の臨床病態—軟骨成分を加味した骨棘と半月板逸脱の関連—. THE BONE 2018; 32: 45-53.
- 4) Englund M, Guermazi A, Roemer FW, Aliabadi P, Yang M, Lewis CE, et al. Meniscal tear in knees without surgery and the development of radiographic osteoarthritis among middle-aged and elderly persons: The multicenter osteoarthritis study. Arthritis Rheum 2009; 60: 831-839.
- 5) Guermazi A, Niu J, Hayashi D, Roemer FW, Englund M, Neogi T, et al. Prevalence of abnormalities in knees detected by MRI in adults without knee osteoarthritis: population based observational study (Framingham Osteoarthritis Study). BMJ 2012; 345: e5339-e5339.
- 6) Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Kinoshita M, Liu L, Sadatsuki R, et al. Association of medial meniscal extrusion with medial tibial osteophyte distance detected by T2 mapping MRI in patients with early-stage knee osteoarthritis. Arthritis Res Ther 2017; 19: 201.

JOSKAS Japanese Orthopaedic Society of Knee, Arthroscopy and Sports Medicine 委員会紹介

ニュースレター委員会



担当理事
大阪保健医療大学 保健医療学部
中村 憲正



委員長
NTT 東日本札幌病院 整形外科
井上 雅之

本委員会は、委員長の井上雅之先生（NTT 東日本札幌病院）を中心に杉本和也先生（奈良県総合医療センター）、園田昌毅先生（中伊豆リハビリテーションセンター）、佐藤卓先生（新潟医療センター）、橋本祐介先生（大阪市立大）、熊橋伸之先生（島根大）、松下雄彦先生（神戸大）の計7名の委員と、担当理事である小生で活動しています。これまでのニュースレターはモノカラーで、内容もあくまで律義に学会活動を発信するといったもので、その存在は会員の先生方にはあまり近いものではなかったかもしれません。しかし学会誌を除いて、学会から学会員の先生方のお手元にお届けできる数少ない刊行物であるニュースレターですので、井上先生が委員長に就任されてまず内容の刷新を目標に掲げました。紙面のフルカラー化、内容の充実と具体的な作業が始まっております。まだ内容は今後のお楽しみということにしますが、新生ニュースレターにどうぞご期待ください！

2018年度 JOSKAS フェローシップ報告記

三友堂病院/山形大学 整形外科 五十嵐貴宏 (研修先: 函館整形外科クリニック、神戸大学、八王子スポーツ整形外科)

JOSKAS Followship にご選出頂き、函館整形外科クリニック、神戸大学、八王子スポーツ整形外科の3施設で研修させて頂きました。函館整形では大越康充先生より熱心にご指導頂き、TKAでの術前計画の重要性から正確な手術手技まで丁寧に教えて頂きました。また連日食事会で温かく迎えて頂き、特に函館山からの夜景は気象条件に恵まれ最高の輝きでした。研修後もご連絡を取らせて頂き、函館整形の皆様の温かさに感謝しております。神戸大学では黒田良祐教授をはじめ膝スポーツ班の多くの先生方にお世話になりました。手術、外来、プロスポーツチームの施設見学など盛り沢山のプログラムを構成して頂き、充実した1週間を過ごすことができました。中でも六甲山登山は予想以上の険しさでしたが、その分先生方との距離が一気に縮まり良い思い出になりました。また毎日食事会でおもてなし頂き、神戸の美味を堪能できました。同じく研修された岡山大学の日野知仁先生との貴重な出会いもありました。

八王子スポーツでは間瀬泰克先生より手術、外来を中心に熱心にご指導頂きました。関節鏡専用の手術室、スポーツジムと併設された術後リハビリ施設は非常に興味深いものでした。記念に頂いた“ハスポパーカー”は現在も愛用しています。本研修で多くの先生方と出会い勉強できたことは、自分の見識を広められただけでなく、整形外科医として進むべき道を考える非常に良い機会となりました。最後にこのような機会を与えて頂いたJOSKAS関係者の皆様、温かく迎えて頂いた各施設の先生方、論文指導を賜りました高木理彰教授、不在中の診療を支えて頂いた三友堂病院の先生方に深謝致します。



長崎大学病院 整形外科 中添悠介 (研修先: 大阪大学、行岡病院)

2018年度JOSKASフェローシップの機会を頂き、大阪大学・行岡病院で合わせて約2週間研修させていただきました。大阪大学では手術研修はもちろん、外来診療、スポーツ選手の診療見学、リハビリテーションミーティング等、とても充実した研修となりました。行岡病院では、史野根生先生の手術に入らせていただき、グラフト採取から骨孔作成、半月板縫合まで世界をリードする手術を直に研修できました。また外来では全国より多くの患者さんが来られていましたが、術前術後の患者さんの膝を直接触らせていただき、凄く勉強になりました。診療以外でも、リサーチミーティングや連日の食事会、空いた時間で観光案内までしていただき、診療以外の面での多くの先生方と交流することができ

ました。同年代の先生方が診療はもちろん研究もしっかりとされていたことにも、とても刺激を受けました。このような機会を与えていただいた、JOSKAS理事長・安達伸夫教授、研修を受け入れてくださりました大阪大学・中田研教授、前達雄教授および行岡病院・史野根生先生はじめとする諸先生方、ご推薦を賜りました長崎大学・進藤博裕名誉教授、尾崎誠教授に心より感謝申し上げます。



神戸大学大学院 整形外科 長井寛斗 (研修先: 弘前大学、広島大学)

2018年度JOSKASフェローシップに選出頂き、弘前大学整形外科と広島大学整形外科でそれぞれ1週間ずつ研修させて頂きました。両施設とも特に膝関節外科・スポーツ整形外科において活発に臨床や研究をなさっていることから研修を希望致しました。

手術見学や外来診療見学、ミーティングやカンファレンス、施設見学等を中心に研修をさせて頂き、皆様の歓待を受け非常に有意義な研修となりました。石橋教授や安達教授の洗練された手術に感銘を受け、両施設の診療や手術技術の高さ、研究への熱意を肌で感じることができました。同じ手術でも当科とは異なるセッティングや手技で行っておられる部分があり、大変勉強になりました。また、見学やお食事会を通じて多くの先生方と親睦を深め、充実した時間を過ごさせて頂きました。今回

のフェローシップを契機に自分の診療方法・手術手技を顧みる良い機会になり、診察方法や診断技術、手術手技の改善に繋げることができたと感じております。

この場をお借り致しまして、ご選出いただきましたJOSKAS越智前理事長をはじめ選考委員の先生方、ご推薦賜りました当科黒田教授、研修を快く受け入れて下さった石橋教授、安達教授をはじめ弘前大学整形外科、広島大学整形外科の皆様へ心より御礼申し上げます。



大阪市立大学 整形外科 韓昌勳 (研修先: 産業医科大学、東京医科歯科大学)

2018年度JOSKAS traveling fellowとして、産業医科大学若松病院整形外科、東京医科歯科大学運動器外科学講座の2施設を1週間ずつ見学させて頂きました。産業医科大学若松病院では、内田宗志教授をはじめ、多くの先生方にご指導いただき、股関節鏡を中心とした手術見学、外来見学、連日の食事会など、海外から手術に見学に来られていた先生方と一緒に学ばせて頂きました。東京医科歯科大学では古賀秀之准教授の手術、外来見学、基礎実験のリサーチミーティングにも参加させて頂き、臨床、基礎の両面の視点から多くを学ぶことが出来ました。各施設

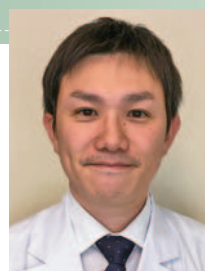
の同世代の先生方とも食事する機会が多く、様々な話を通じて診療や研究に対する姿勢などを知ることができ、大変刺激を受けた2週間でした。最後に内田先生、古賀先生をはじめ、お世話になった多くの先生方、貴重な見学の機会を与えてくださった前理事長の越智先生、現理事長の安達先生にこの場を借りて御礼申し上げます。



鳥取市立病院 整形外科 日野知仁 (研修先: 長崎大学、神戸大学)

この度、JOSKAS fellowship に選出して頂き、長崎大学、神戸大学で1週間ずつ研修をさせて頂きました。長崎大学では、脛骨腓外反骨切り術を中心に見学させて頂き、手術手技や術後経過など大変丁寧に教えて頂きとても勉強になりました。神戸大学では、スポーツ整形について学ぶ機会を多く頂き、外来また施設見学でのプロスポーツ選手に寄り添った診療姿勢に感銘を受けました。また、両施設においてとてもあたたかく歓迎して頂き、食事会など非常に多くの時間を共有させて頂きました。こうした貴重な機会の中で伺ったお話は、その後の臨床や研

究へのモチベーションに繋がっており大変感謝しております。最後に、このような機会を与えてくださいましたフェロー委員会の先生方、研修を受け入れてくださった両施設の先生方、並びにご推薦を賜りました尾崎敏文教授、古松毅之先生を始め御指導頂きました諸先生方に心より深謝致します。



第12回(2020年) JOSKAS 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

会期：2020年6月18日(木)～20日(土)
会場：札幌コンベンションセンター
会長：石橋 恭之(弘前大学医学部 整形外科学教室)
URL：<http://www.congre.co.jp/joskas-jossm2020/>
演題募集期間：

2019年12月3日(火)～2020年1月24日(金) 正午
〈合同開催〉第46回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会
第18回 JOSSM-KOSSM Combined Meeting

JOSKAS セミナー

会期：2020年6月20日(土)～6月21日(日)

〈同時開催〉第19回日仏整形外科学会

会期：2020年6月20日(土)～21日(日)

会長：星 忠行(小松整形外科医院 副院長)

第13回(2021年) JOSKAS 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

会期：2021年6月17日(木)～19日(土)
会場：札幌コンベンションセンター
会長：出家 正隆(愛知医科大学 整形外科学講座)

〈合同開催〉第47回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会
会長：稲垣 克記(昭和大学医学部 整形外科学講座)

第14回(2022年) JOSKAS 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

会期：2022年6月16日(木)～18日(土)
会場：札幌コンベンションセンター
会長：遠山 晴一(北海道大学大学院 保健科学研究所)

〈合同開催〉第48回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会
会長：岩崎 倫政(北海道大学大学院 整形外科学教室)

編集後記

ニュースレター委員会 新潟医療センター 佐藤 卓

皆様、お気づきのように JOSKAS ニュースレターが装いも新たに生まれ変わりました！井上雅之先生(NTT 東日本札幌病院)が新たに委員長に就任され、担当理事の中村憲正先生(大阪保健医療大学)のアドバイス(てこ入れ！?)も頂き、紙面のカラー化・頁数増加とともにいっそう充実した内容となりました。今回の「アップグレード」に際しては当然出版費用も増大するため、我々委員としては関連企業の方々にスポンサーシップの依頼をしたわけですが、私がお願いした殆どの企業では「JOSKAS ならば！」と快諾して頂きました(恫喝ではありません)。お陰様を

もちまして、年頭のご挨拶を頂いた安達伸生理事長の生き生きとした表情をはじめとして、全ての記事がわかりやすく、かつ表情豊かに伝わったのではないかと思います。ご寄稿頂いた先生方、ご協力を頂いた企業の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。今後も一層、面白く充実したニュースレターをお届けする所存でおります。

